

# 弥栄之郷共同体

やさかのさと

## そのあゆみ(歴史)

1971年3月、われわれの備北共同体運動は、岡山県阿哲郡・備北開拓にはじめて産ぶ声をあげました。その後、数回の労働キャンプを通して備北共同体の建設を目指しましたが、その土地が個人の私有地であることが決定的に影響して備北開拓を離れることになりました。備北開拓での一年余は、われわれにとって共同体を産みだすための胎動期であり、また、そこでの経験を批判的に踏まえて共同体を創りだすための〈共同体前史〉として多くの教訓を与えてくれました。

1972年7月、島根県那賀郡弥栄村に最初の共同体地をみつけ、四人の仲間が住みこみ、弥栄之郷(やさかのさと)共同体が発足しました。7月8日と、スウェーデンからのS.C.I.(国際市民奉仕団)のボランティア、ベン君が参加し、弥栄之郷共同体は最初からインターナショナルな雰囲気の中で発足しました。

8月13日～15日に、弥栄での初めての

キャンプを計画し、弥栄之郷共同体を今後どのように運営し、どのような活動をしていくかを話し合いました。夏休み後半には高校生キャンプを行ない、都会の子が初めての農作業に汗を流しました。キャンプ以外にも各地からいろいろな訪問者があり、その数はすでに30名近くになっています。また、近辺の農家の人たちとは、盆踊り・運動会・秋祭りなど機会あるごとに参加し、親しくつきあっていくようにしています。

現在(72.11A)、弥栄之郷共同体は、毎日50個前後を産卵する70羽のニワトリと、300本のシイタケ栽培、大根・タマネギなどの畑作をし、それらを一部販売しています。73年からは、米の自給体制を含めて、大豆・トウモロコシなどのニワトリの飼料用穀類に力をいれ、野菜・シイタケ・ニワトリを、弥栄之郷共同体の経営の三大柱として、それぞれ自立するようやっいていこうとしています。

# 弥栄之郷

## 弥栄之郷共同体

<なまえ> 弥栄之郷(やさかのさと) 共同体

<ところ> 島根県那賀郡弥栄村大字三里

<あし> ①京都より山陰線浜田下車

②大阪-岡山-(伯備線回り)-浜田

③大阪-広島 広電バスまたは国鉄バスで浜田

浜田から石見(イワシ) 交通バス安城(ヤスキ) 行・終点下車

有線電話12の9 (バス停近くの雑貨屋で借りて下さい。タダです。)

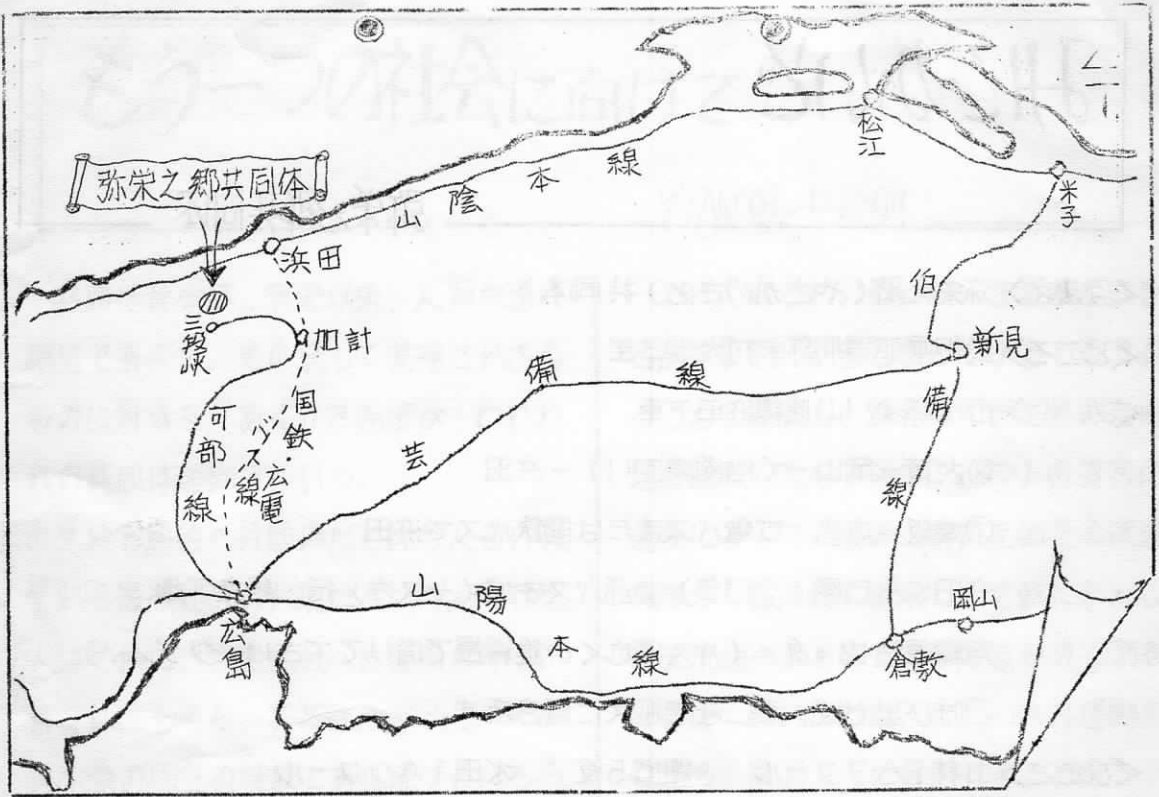
を呼び出せば、そこまで迎えに行きます。

<ひろさ> 山林1ヘクタール 畑地5反 水田1ヘクタール  
(借地で畑に転用中)

<できるもの> 卵, シイタケ, ワケビ, タケノコ, ラッキョ, 栗, 柿, 桃, 杏,  
リンゴ, トウモロコシ, 大豆, 米, 大根, 白菜, 広島菜, キャベツ

等々の野菜類

<てんき その村> 典型的な山陰型の気候で、外界(?)より常に10℃は気温が低いので、夏はしのぎやすいが、冬・特に1・2月は1メートル~2メートルは雪がつもる豪雪地帯で、スキーをすることも可能です。雪が降るといってもマルチドレーザーで除雪するため、孤立することはめったにありません。しかし、弥栄村・その中でも共同体のある横谷部落は、日本でも有数の過疎率の高い村で、その意味では日本の農村のかかえている問題がすべて露見しているといえます。しかし皮肉にも弥栄村の過疎化の激しいことが逆に、弥栄郷共同体のその地にある意義であり、今後の発展・拡張の可能性にも関係しています。



## 共同体は開かれている

共同体日記抄より

“無秩序か、秩序か”われわれはここにおいてまで、今までの感覚によって秩序をまた規律を形成せねばならないのか。小生の思うに、他人を認めることが出来る様にならないかぎり、秩序は自らを、また、他を縛りつけているものとなるのではないか。そんなものはケソケラエである。他人を認める、とは一体何か。寝

たいやつは寝る、竹きたいやつは竹く、それが両者の間において同一の意味を持つ行為であるということを受け入れることが出来るということである。そしてこの主人はお前だ！”と自分自身に語りつづけることを通して、自分自身が何ものからも統制されることのないものとなり得、他人との関係がより鮮明になって

くるんやないやろか。それが、われわれの求める秩序であると思うんだ。

(71/8/25)

ついにやってきた。吟と鉄治が先発隊として弥栄之郷共同体に第一歩を印したのだ。(72/7/1)

畑仕事は楽じゃない。お百姓さんごころうさんと言ってあげたい気がします。大阪の都会っ子が、農業労働のつらさを味わうというのは有意義なことじゃないかな。国会議員もちょっとぐらゐやってみるべきだと思うな。(72/8/18)

今朝も、早くからホリさんたちがマイクロバスで 共同体見物に 来られました。マイクロバスのなかには 2人ほどしかいないので思っあたりを見回すと道端にある小屋の陰に2人、畑を見下ろせるヤブの中に2人が隠れてこちらをうかがっていました。「頭隠して尻隠さずのホリさんたちを障子の破れ目から見物していると、なんと警察官が立ち小便をしているではありませんか。「イヌのみ小便するべからず」の立看板を立てようかとみんなで話し合いました。

ホリさんが共同体に関心を示すという

(177)

ことは、正当にもその共同体が反体制志向を持っていることが公式に認められたことであり、まったく当然なのであります。共同体運動の〈健全さ〉の証しであります。(72/9/2)

いよいよ明日帰ります。弥栄之郷共同体にきてもう10日以上になります。なぜ10日もいたのかというと、10日以上いると、〈やどちやう〉に書いてあるからでず。〈やどちやう〉は〈宿帳〉を古典的になまったものではなく、〈宿ちやう〉すなわち「ここは宿ではありませんよ」という意味らしいです。しかし、本当は宿帳のような機能も果していて、訪問者はまず自己紹介のようなものをこのノートに記さなければならぬことになっています。

その他にも、「訪問者は、常駐者と同じように労働し、料理し、掃除することとか、「訪問者は、すべてに自発的であり、積極的であり、自治的に行動し、弥栄之郷共同体を担うこと」とか書いてあります。(72/9/3)